

来週の市場とレート予想

	11/28 (月)	11/29 (火)	11/30 (水)	12/1 (木)	12/2 (金)
無担保O/N	△0 . 0 8 6 % ~ 0 . 0 0 1 %				
銀行券	△ 300	△ 1,000	△ 200	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 7,300	△ 5,000	+ 13,700	△ 10,000	△ 65,000
資金需給	不 7,600	不 6,000	+ 13,500	不 10,000	不 66,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国債発行(40年)	財政融資資金実行		法人税・消費税・保険揚げ
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,100 CP等買入 △ 200 補完供給 + 100				成長基盤強化 △ 1,600
オペスタート	共通担保(全店) + 3,000 国債買入 + 12,400	短国買入 + 10,000	CP等買入 + 3,500		
(日本)		有効求人倍率(10月) 家計調査(10月) 完全失業率(10月)	鉱工業生産指数(10月) 基調的なインフレ率を 捕捉するための指標	日銀の桜井審議委員が 大津市内で講演・記者会見 対外対内証券売買(前週分) 債券市場サーベイ	マネタリーベース(11月) 営業毎旬報告(11月30日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額
(海外)	欧 ドラギ ECB総裁 欧州議会委員会で証言	米 GDP(7~9月、改定値) 米 消費者信頼感指数(11月) 米 ニューヨーク連銀総裁が講演 米 ハウエルFRB理事が講演	米 ADP雇用統計(11月) 米 シカゴ製造業景況指数(11月) 米 ペーシェブック 米 ハウエルFRB理事が講演 米 グラス連銀総裁が講演 米 グラープラント連銀総裁が講演 欧 ドラギECB総裁が講演(マドリッド) 欧 ユーロ圏消費者物価指数 (11月速報値)	米 新規失業保険申請件数 (26日終了週) 米 グラス連銀総裁が講演 米 グラープラント連銀総裁が講演 米 ISM製造業景況指数(11月) 欧 ユーロ圏失業率(10月)	米 雇用統計(11月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.05 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初311兆7,300億円から始まった。22日には国債買入・国庫短期証券買入オペ等を主因に314兆円台まで増加し、週末は314兆4,800億円で越週した。
無担保コールON物は、週を通して概ね△0.075~△0.030%のレンジで取引された。同加重平均金利は△0.054~△0.051%で推移した。先週に引き続き、21・24日には試し取りの動きが見られ、+0.01~+0.02%での出合いも散見された。ターム物は、1W~2Wで△0.03~△0.02%を中心に取引された。
25日に総務省が公表した10月の全国消費者物価指数は、CPI(除く生鮮食品)が前年同月比△0.4%(9月は前年同月比△0.5%)の99.8と、8カ月連続のマイナスとなった。
来週の予定は、国内では、完全失業率・有効求人倍率(11月29日)、鉱工業生産指数(11月30日)、海外では、ドラギECB総裁の欧州議会委員会証言(11月28日)、米地区連銀経済報告(ページェブック)(11月30日)、米国雇用統計(12月2日)などが挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.300 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約6,700億円で、期落ち額約2,900億円(金融機関・ABCP除く)を大きく上回った。賞与シーズンを控え、鉄鋼、小売など幅広い業種で大量発行が見られた。
a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。
現先レートの中心は、-0.100~0.000%程度で推移した。
来週の期落ち額は8,800億円程度となっている。

<TDB>

24日に国庫短期証券3M第648回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.2754%(前回債△0.2716%)、平均落札レートは△0.2873%(同△0.2891%)と前回債と比べて利回りに大きな変化はなかった。セカンダリーは3Mで△0.30%近辺の地合いとなっている。6Mは△0.30%近辺の地合い、1Yは目立った出合は見られなかった。来週1日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.095%近辺の出合い。短国3Mの発行日である28日受渡しでは△0.085%まで上昇したが、週末には国庫短期証券買入オペが1兆円オファーされ、再度△0.095%近辺まで低下し越週した。
SC取引では先週に続いて10年340番台のbidが多く、343回債は週初△0.15%近辺、後半は概ね△0.20%台半ばで取引された。10年336回債は週末にレートが急低下し、△0.40%を下回る出合いも一部みられた。その他2年367・368・369回債、5年124・127・128・129回債、10年323・325・328・329・332・344回債、20年158回債、40年9回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。